

# カンボジア 工場労働者のための子宮頸がんを入口とした 女性のヘルスケア向上プロジェクト

Newsletter from SCGO-JSOG Project on Women's Health and Cervical Cancer

No. 8 June 2016

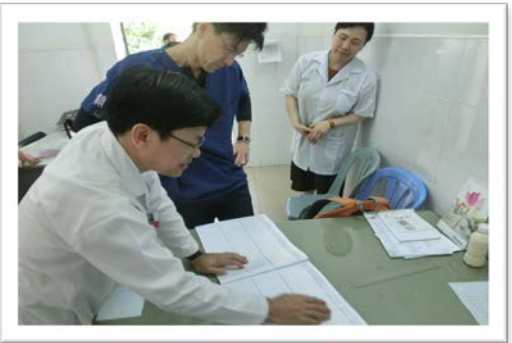
## 日本産科婦人科学会員の医師による実地指導

6月12～19日の間、慈恵医大より矢内原医師と黒田医師が派遣され、プロジェクト対象のクメールソビエト病院、カルメット病院、国立母子保健センター病院でコルポスコピーの指導、管理方針に関する意見交換会や手術見学、3病院へ導入予定の下平式高周波手術器の動作の確認などの活動を行いました。また、カンボジア産婦人科学会事務局においてミニセミナーを2回開催しました。

**コルポ指導について:**コルポスコピーの手順を再確認し、症例ごとに所見の検討を行いました。コルポスコピーの手順については西野先生のご指導のお陰で、3病院とも概ね問題なく施行されていました。しかし、患者背景や設備環境などの違いにより、3病院で統一された手順の運用までには時間と労力を要する印象でした。

**ミニセミナーについて:**カンボジア産婦人科学会会員約30名を対象に、6月14日と16日の午後2時より、本邦における子宮頸癌の総論（統計・診断・治療）とコルポスコピーの基本について、質疑応答をはさみながら約2時間のセミナーを行いました。2日間とも多くの質問と活発な議論があり、子宮頸癌に対する関心の強さが窺われました。特にHPVを含めた診断のプロセスと治療のガイドラインについては多くの質問が出ました。

「Q and A on colposcopy」では、10症例のコルポ所見を参加型のクイズ形式により検討を行いました。予想以上に議論が白熱する場面もありましたが、概ね高い正答率でした。「How to LEEP」では、下平式高周波手術器を用いた円錐切除について器械の設置から病理標本提出までの過程を説明しました。「LEEP demonstration」では、下平式高周波手術器の実技を行いました。電源から電極の配線、操作方法に至るまで説明し、実際に参加者達が時間の許す限り練習することができました。



(写真) 病院の外来で巡回指導



(写真) ミニレクチャー風景



(写真) 下平式高周波手術器の動作の確認

<総括> 自国の医療向上に邁進するカンボジアの産婦人科医師達を目の当たりにしました。彼らの医療に対して向き合う真摯な姿勢は、プロジェクト遂行のための根幹を担っていると実感しました。十分な数の病理医が不在であるカンボジアにおいて、コルポスコピーを軸とした子宮頸癌検診の普及・確立には、国際間のみならず国内における医療格差も考慮する必要があると思います。本プロジェクトに参加することで、多くの貴重な経験をさせて頂きました。そして改めて我々の医療を見直す良い機会ともなりました。今後、互いに前進できる取り組みの継続が不可欠であると考えます。最後にこの場を借りて、派遣期間中に現地地で対応いただいた松本安代先生と大石博子様へ深くお礼を申し上げます。

東京慈恵会医科大学 産婦人科学講座 矢内原臨・黒田高史

## カンボジア産婦人科学会セミナー開催



(写真上下)SCGO セミナー風景



(写真) 第4回プロジェクト運営会議

6月23日、カンボジア日本人材開発センター(CJCC)にて、カンボジア産婦人科学会(SCGO)は、「女性の健康」についてのセミナーを開催しました。平日にも関わらず、地方からの自費参加者も多く、総勢248名が参加しました。

日本産科婦人科学会から、当プロジェクトマネージャーの木村正教授が「子宮内膜症」、矢野哲先生が「閉経」のテーマで講演しました。

また、SCGOの各学会員の発表の他に、SCGOからは、工場で行った女性労働者の子宮頸がんに関する意識調査結果や、数か月かけて何度も話し合いを重ねて作り上げたプロトコールが、学会員に発表されました。学会員からの質疑応答もとても活発に行われました。

SCGOの年配会員の方々から「Menopause」の話を楽しみにしていると事前に言われていましたが、閉経後のホルモン補充療法(HRT)がまだほとんど行われていないカンボジアにおいては、HRT以外のサプリメント・栄養・運動の内容をもっと盛り込めばよかったと思いました。

国立国際医療研究センター病院 副院長 矢野哲

## 派遣医師の活動

木村正プロジェクトマネージャー(6/21-6/25 派遣)と矢野哲医師(6/21-6/24 派遣)は、短期間の間に、プロジェクト対象3病院の巡回指導を行い、第4回プロジェクト運営会議に出席し、カンボジア人医師と現状や今後の活動について協議や情報共有を行いました。これらの活動を通じ、カンボジア人医師の自信と意欲が1年前と大きく変わっていることを実感することになりました。

また、木村教授は、藤田医師とともに、JICAカンボジア事務所や大使館へ当プロジェクトの活動・進捗の報告を行うとともに、WHOカンボジア事務所と子宮頸がん戦略について意見交換を行いました。

## プロジェクトを取り巻く動き

## 供与機材の贈与式

6月22日、国立母子保健センターにて、カンボジア保健省エンホット次官同席のもと、プロジェクトの対象である3病院に下平式高周波手術器、子宮頸部生検かんの贈呈式が行われました。全日本労働福祉協会からの長撰子もあわせて供与されました。



- 5/30-7/22 : 大石博子専門家(健康教育教材作成)  
カンボジア派遣
- 6/6-6/20 : 松本安代医師カンボジア派遣
- 6/8 : 工場へ女性労働者の意識調査の結果の報告
- 6/12-6/20 : 東京慈恵会医科大学より矢内原臨医師、黒田高史医師  
カンボジア派遣
- 6/14,16 : 矢内原医師、黒田医師によるミニレクチャー
- 6/18-6/26 : 藤田則子医師カンボジア派遣
- 6/21-6/25 : 木村正プロジェクトマネージャーカンボジア派遣
- 6/21-6/23 : 矢野哲医師カンボジア派遣
- 6/22 : 供与機材(下平式高周波手術器と生検鉗子)贈呈式
- 6/22 : 第4回プロジェクト運営会議
- 6/23 : SCGO「女性の健康セミナー」開催  
: 子宮頸がん診断早期治療プロトコールを3病院に配付。
- 6/24 : JICAカンボジア事務所、日本大使館にプロジェクトの進捗  
を報告
- 6/24 : WHOカンボジア事務所と意見交換